
超税理士物語

超税理士倶楽部

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超税理士物語

【Nコード】

N4438E

【作者名】

超税理士倶楽部

【あらすじ】

アメブロ人気ブログ超税理士倶楽部のメンバーが謎の企画小説を連載中

第1話 はじまりの言葉

僕たちが何かを成し遂げたとき この物語を読み返してください。

「今度、旅行に行くから・・・」

僕のこの言葉からすべてが始まったと思っている

「今度、旅行に行くから、ブログ代わりに書いてほしいんだけど・・・」

「ぜんぶ 任すから」

2007年2月2日

僕は前田、大末と3人で飲んでた

3人で、というのはこの日が始めてだった気がする

大末とはこの日からさかのぼること3ヶ月前に知り合った

同業者の研修で知り合ったわけだが、初対面の印象は正直何も残っていない

覚えていることと言えば ” 毎回遅れてくる奴だなあ ” という程度

良い印象もなかわりに悪い印象もなかった

ところが、研修最終日に開かれた懇親会で本の話題が何かで意気投合

3

以降、頻繁に連絡を取り合う仲になり

時間が合えば梅田で待ち合わせをして晩御飯を一緒に食べていた

それぞれ別のブログを書いていた時期でもあったので

大末との会話をブログのネタにもよく使っていた

余談だが僕のブログのタイトルは「新米税理士の徒然日記」

その後、「神戸に住み大阪で働く新米税理士のブログ」に改名したが

どちらもノーセンス

今思つとやめてよかったと思つぐらい恥ずかしい

そんなブログでも守っていたことが一つだけあった

”どんなに帰宅が遅くなると毎日書く”

その甲斐あつてか固定ファンができ

税務会計系のランキングでは最高2位を獲得したこともある

2007年2月

祝日を利用して旅行に行くことが決まったときも

更新継続のためブログは旅先で書くつもりだった

でも3人で飲んでいるときにひらめいた

前田と大末に書いてもらったら面白いんじゃないかと

一人のブログに他人が書くなんて

今までにない画期的なことなんじゃないかと

「今度、旅行に行くから、ブログ代わりに書いてほしいんだけど・・・」

「ぜんぶ 任すから」

そのときの二人のブログは最高に面白かった
腹の底から笑った

でも突然に何かが変わったわけではなかった

旅行後、お礼も兼ねてのブログで

二人のことを DADA税理士さん、鯨税理士さんなんて

他人行儀な呼び方で書いている

当時はまだそんな関係だった <カズ才魂こと木村>

第2話 二人の若手税理士との出会い

木村、前田とは、セミナーでなんとなく、出会った。

よくある出会いだと思っていた。

木村は真面目な兄さんやなあという印象だった。

前田はおもろい兄さんやなあという印象だった。

木村と意気投合し、夜な夜な2人での夜会は続いていた。

週2回ぐらいは、会っていたのではないかと思う。

当時の私は、夜も遅く、予定も立てられないほど、不規則な生活を送っていた。

付き合ってくれる友人もおらず、

徐々に尊敬の念を深めていった木村の話を聞いたり、

木村に話を聞いてもらったりすることが楽しくて仕方がなかった。

前田には、事務所が近いということで2006年の12月に「事務所に来ませんか」

と誘った記憶がある。かなり、勇気がいった。

じっくり、話してみたいと思っていたからだ。

近所の魚民で話込んだ。

いままでのこと、今の税理士について、これからのことについて。

意気投合した。

それから、3人で会って話した。

木村から「出掛けるから、ブログ書いてくれへん？」

当時の木村のブログは人気もあり、気がひけたが

もともと、ノリで生きてる私は、

「おもしろそう！書く」と乗かった。

私は秘かにメモのようなブログをやっていた。

誰にも言えないほど、恥ずかしいものだったのだが……。

前田が先に書いた

私もかなり時間がかかったが書き上げた。

楽しかった。

なんとなく、おもしろいことがおこるような予感がしていた。
鯨こと大末 >

第3章 前田

2006年初夏、全国的に名の通った税理士事務所の見学会。

前田と僕はそこで出会った。

後々、親しくなる奴との最初の印象って良かったためしがない。

前田の印象もそうだった。

その見学会では同年代の税理士が多数参加していた。

見学会終了後の懇親会で1974年生まれ数人で同じテーブルを囲んでいた。

そこに前田がいた。

懇親会中、前田とは親しく話しはできなかつたと思う

ところがなぜか懇親会終了後、皆が2次会に行く中

僕は当時前田が勤務する事務所を見学させてもらうことになった

そのあたりのいきさつはよく覚えていない

21時はまわっていたと思う

僕たち以外誰もいない事務所で

前田のやっている仕事の話聞かせてもらった

そこで前田の印象がガラリと変わった

やっている仕事のレベルが桁違いに高かった

同年代で知識で負けていると思った税理士にはじめて出会った

当時は素直にそれを認めることが出来ず

前田に対する僕の中での敷居が高くなった

その後、大末と出会うことになる2006年11月の研修で

再開するまで前田とは連絡を取り合うことはなかった <カズオ魂
こと木村>

お知らせ

この小説はアメブロ「超税理士倶楽部」のメンバーがブログ内
でも連載している

小説です。

ただ、ブログ内では書ききれなかった内容も随時加筆していく予
定です。

これからも超税理士物語の応援よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4438e/>

超税理士物語

2011年1月4日02時15分発行